

2020年度 決算説明会

2021年5月14日

100年をつくる会社



I	2020年度 決算実績	——	01
II	2021年度 業績予想	——	15



2020年度 決算実績

1. 事業環境等の振り返り
2. 業績ハイライト
3. 事業別の概況
4. 財政状態
5. 投資実績

1. 事業環境等の振り返り

国内建設市場の動向

- 公共投資は堅調に推移
- 民間設備投資は慎重な投資姿勢により、減少傾向が続き、競争環境に厳しさが増している
- 労務・資機材の需給は総じて安定的に推移

新型コロナウイルスの影響

- 単体建設事業、開発事業への影響は軽微
- 国内関係会社は運営施設の稼働率に低下がみられたが、建設事業への影響は限定的
- 海外関係会社は北米・欧州・大洋州における影響は軽微である一方、東南アジアにおける建設事業、運営施設事業への影響が長期化

2. 業績ハイライト

当期純利益は通期予想800億円に対して985億円を達成

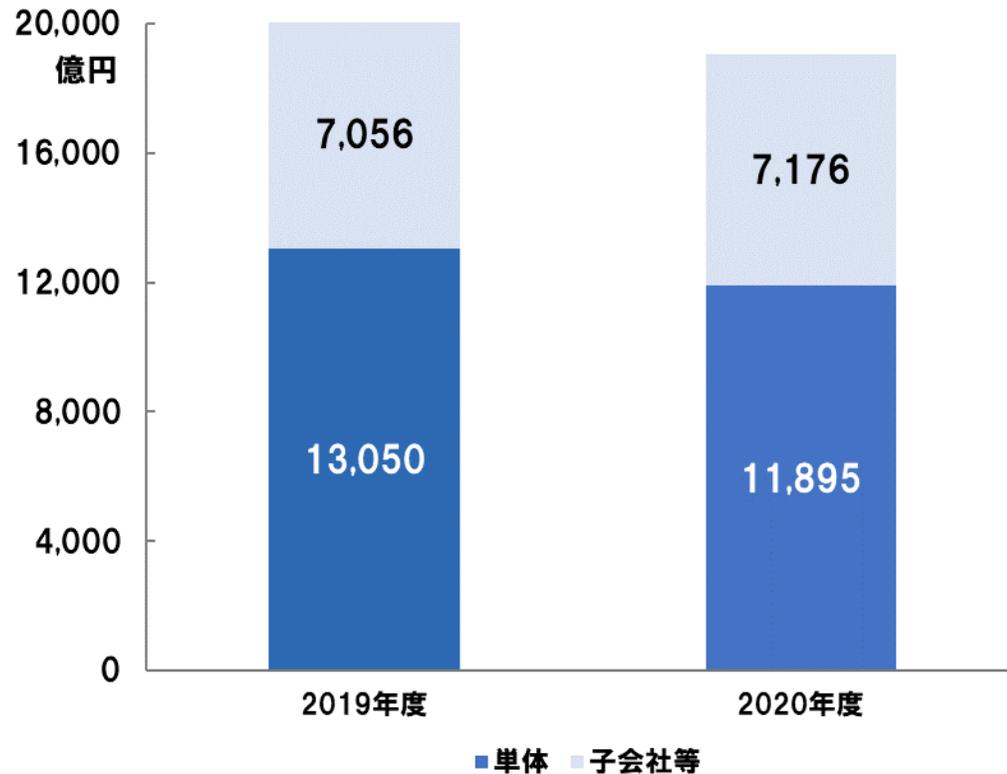
単位:億円	2019年度 実績	2020年度 実績	前年度比	2020年度 予想 <small>※1</small>
売上高	20,107	19,071	△1,035	19,100
営業利益	1,319	1,272	△46	1,150
経常利益	1,466	1,397	△69	1,230
当期純利益 <small>※2</small>	1,032	985	△47	800
建設事業受注高	17,528	17,201	△326	17,900
有利子負債残高	3,268	3,170	△98	3,800

※1 2020年11月10日公表業績予想

※2 親会社株主に帰属する当期純利益

2. 売上高

単位：億円	2019年度 実績	2020年度 実績	前年度比	予想比
売上高	20,107	19,071	△1,035	△28

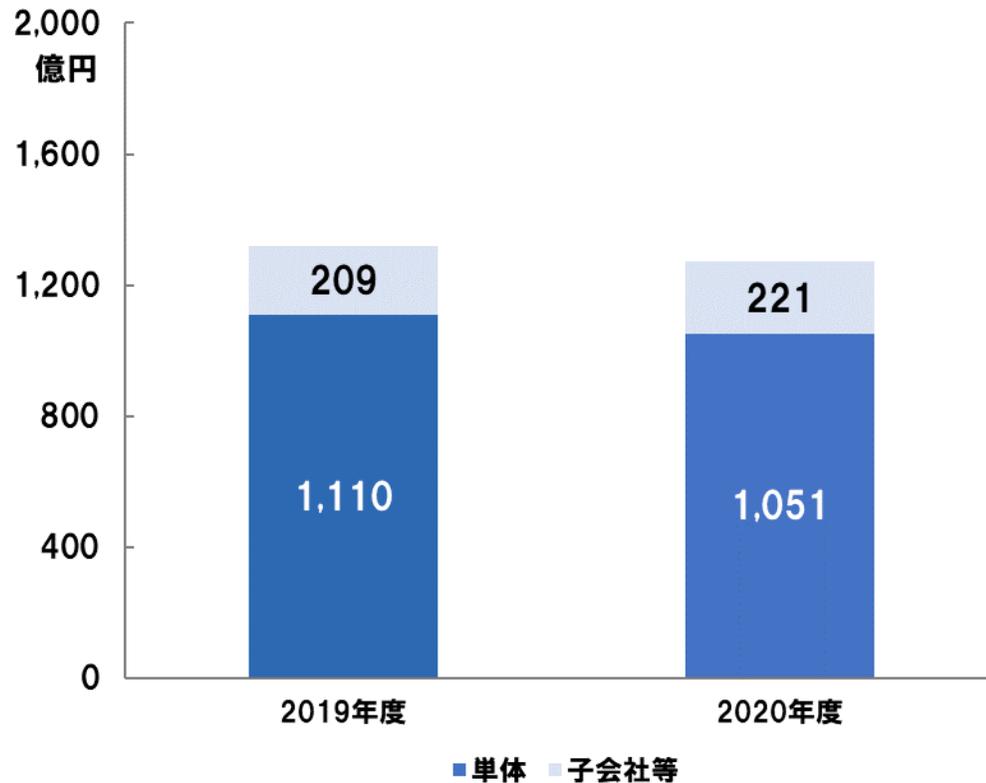


増減要因 (2019年度比)

- 单体建築事業 △1,753
- 国内関係会社 △173
- 单体土木事業 +466
- 海外関係会社 +200

2. 営業利益

単位：億円	2019年度 実績	2020年度 実績	前年度比	予想比
営業利益	1,319	1,272	△46	+122

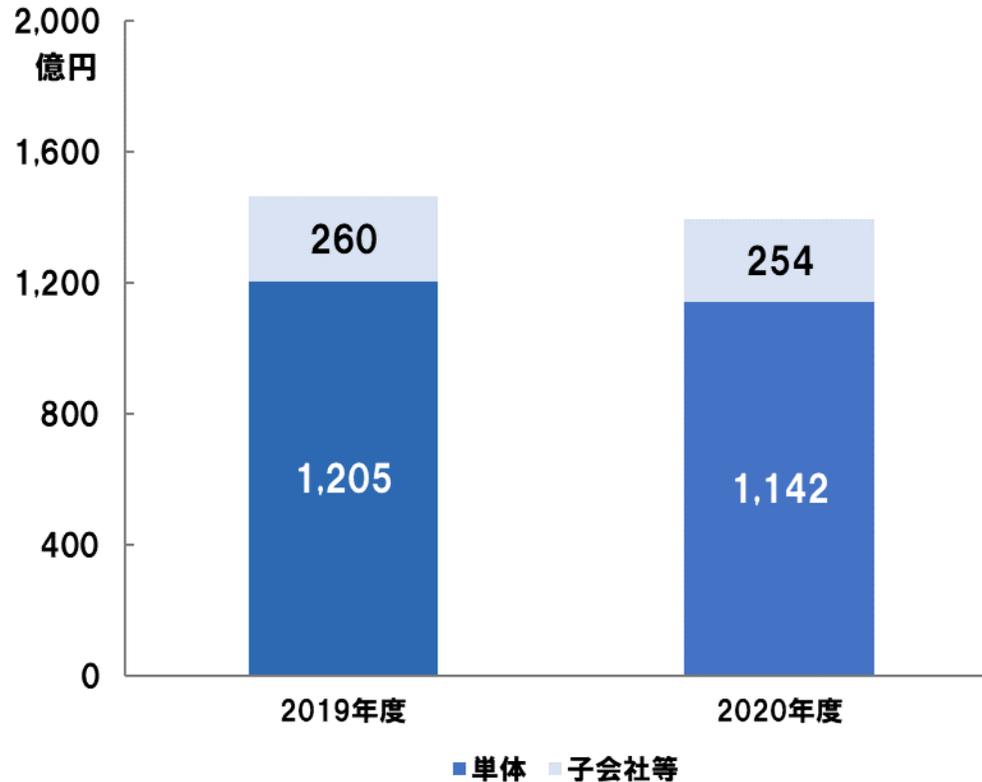


増減要因（2019年度比）

- 売上総利益（单体建築事業） $\Delta 267$
- 売上総利益（单体土木建築） $+115$
- 売上総利益（单体開発事業等） $+89$

2. 経常利益

単位：億円	2019年度 実績	2020年度 実績	前年度比	予想比
経常利益	1,466	1,397	△69	+167

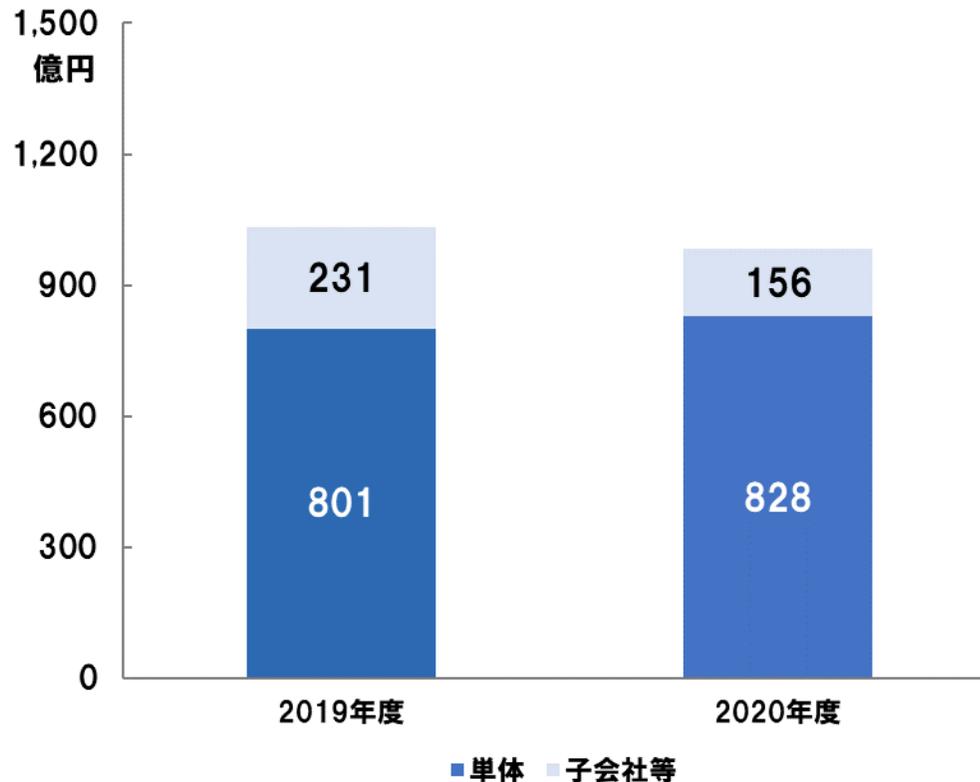


増減要因 (2019年度比)

➤ 営業利益	△46
➤ 営業外損益	△22
（ 開発事業出資損益	△34
持分法投資損益	+20

2. 親会社株主に帰属する当期純利益

単位：億円	2019年度 実績	2020年度 実績	前年度比	予想比
当期純利益	1,032	985	△47	+185



増減要因（2019年度比）

➤ 経常利益	△69
➤ 特別損益 〔 有価証券売却益	+25 +72
➤ 法人税等	△6
➤ 非支配株主持分	+2

3. 事業別の概況 ①土木事業(単体)

受注高

➤ 複数の大型工事受注と設計変更・追加契約の獲得により増加

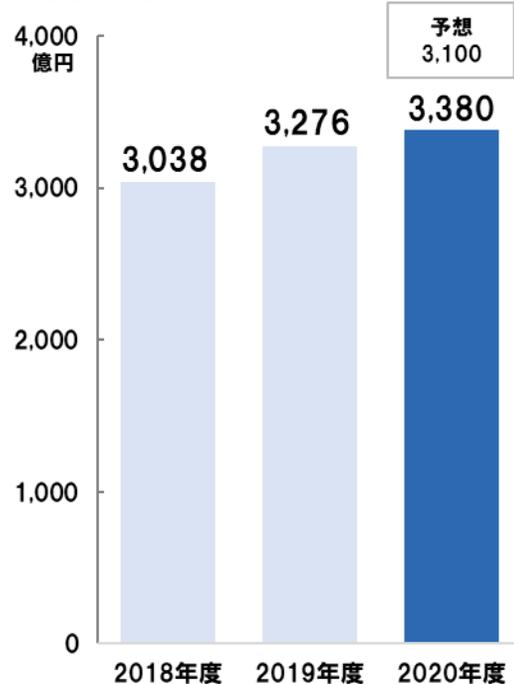
完成工事高

➤ 豊富な手持ち工事の順調な進捗により増収

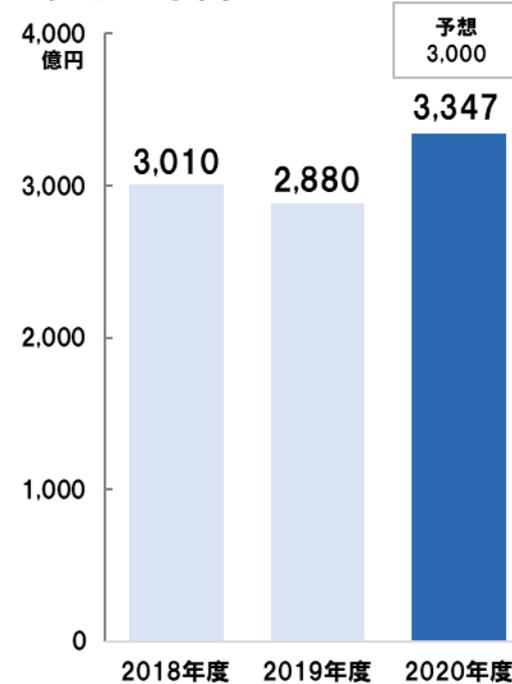
総利益

➤ 生産性向上の効果、竣工工事を中心とする設計変更・追加契約の獲得等により増益

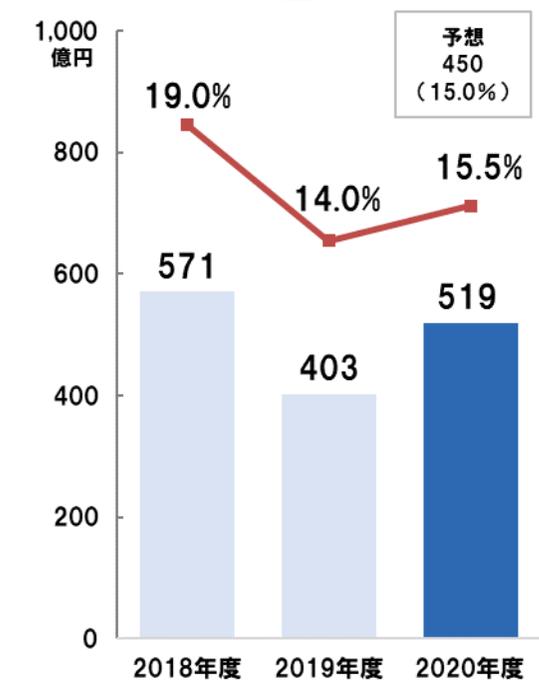
■受注高



■完成工事高



■完成工事総利益



3. 事業別の概況 ②建築事業(単体)

受注高

- 2019年度を上回ったものの、内定・高確度案件の延期により予想を下回る

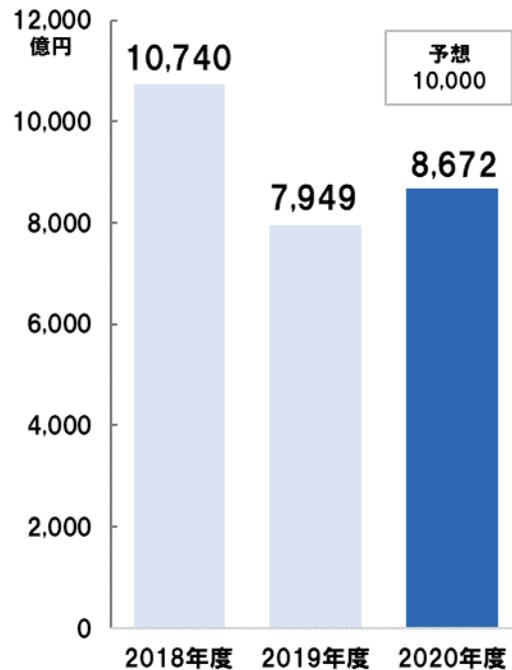
完成工事高

- 大型工事の施工量が少ない時期に当たり減収
- 新型コロナウイルスの影響による受注時期の遅れにより予想を下回る

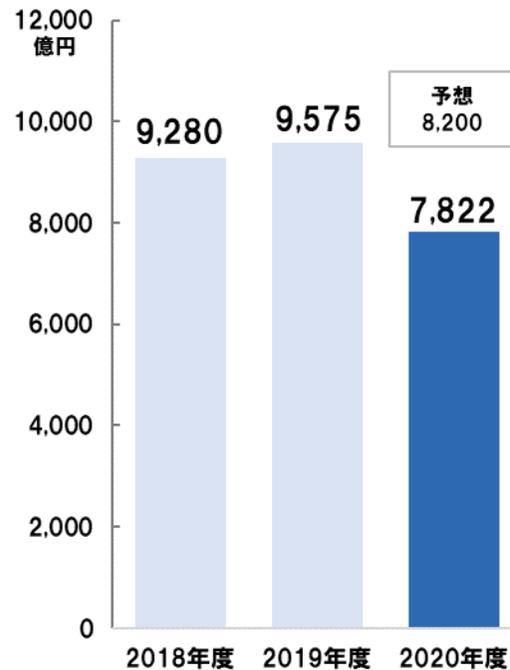
総利益

- 完成工事高の減少を主因に2019年度を下回る

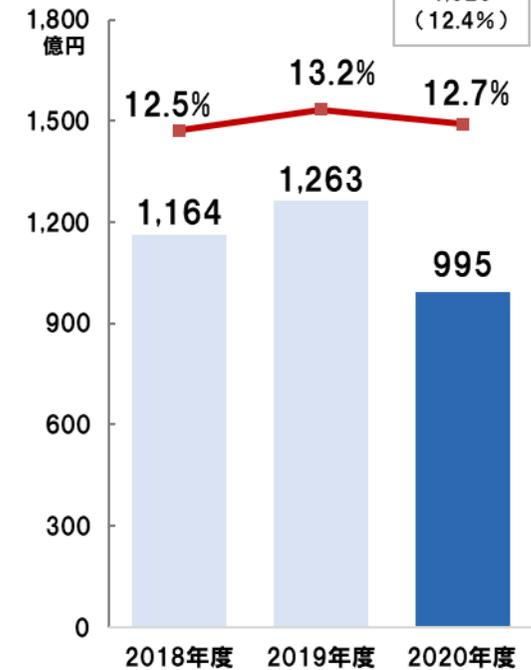
■受注高



■完成工事高



■完成工事総利益



3. 事業別の概況 ③開発事業等(単体)

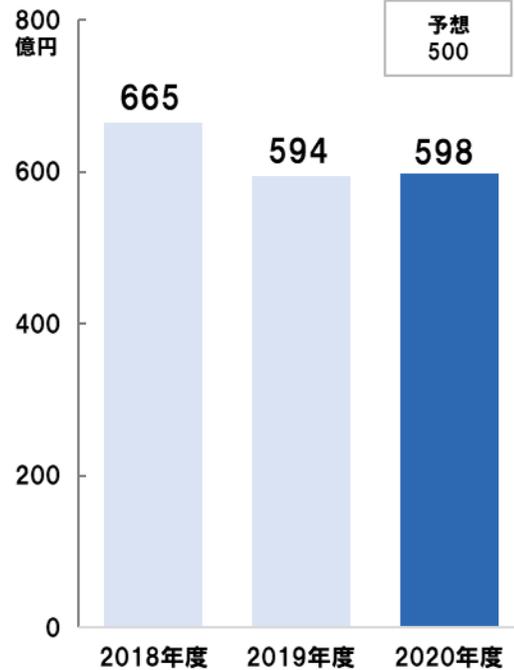
受注高 ▶ 2019年度と同水準を維持

売上高

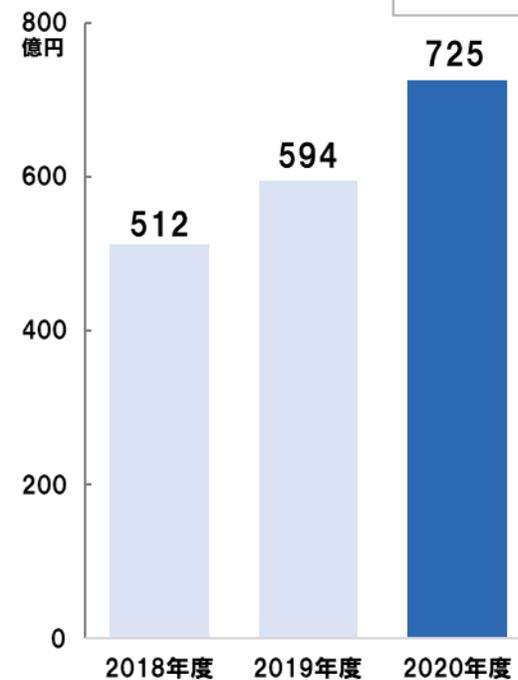
▶ 大型物件の引き渡しなどによる不動産販売事業の増加を主因に増収増益

総利益

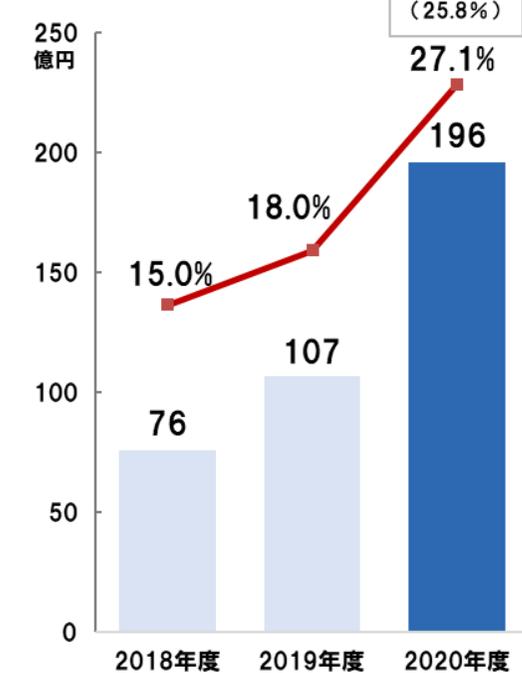
■受注高



■売上高



■売上総利益



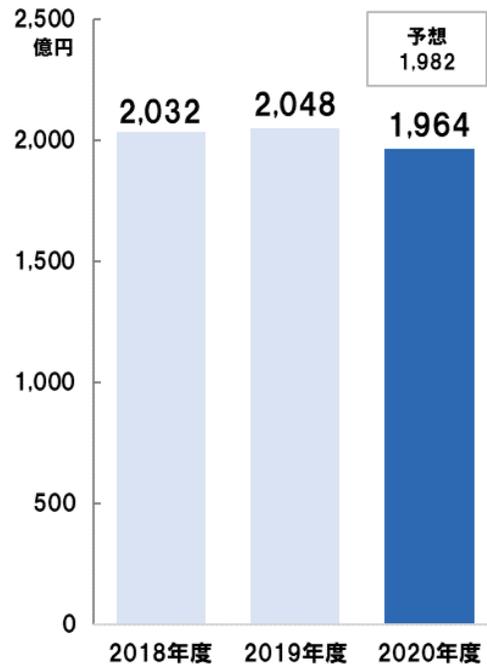
3. 事業別の概況 ④国内関係会社

建設受注高 ➤ 内装工事、設備工事などが減少

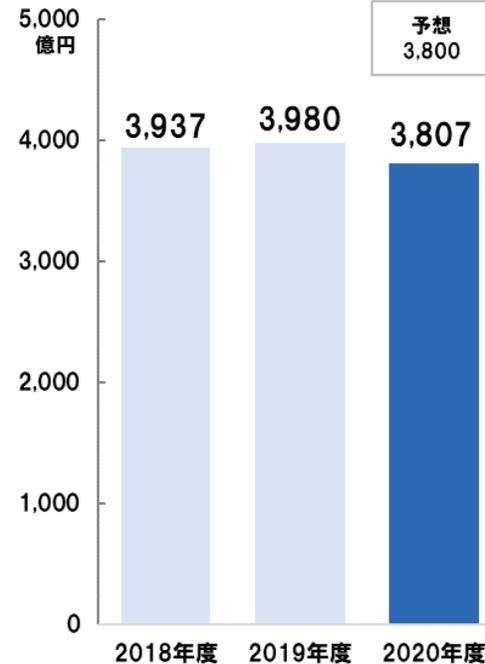
売上高 ➤ 建設事業の売上高減少により減収

当期純利益 ➤ 建設事業の利益率改善により、営業利益は2019年度と同水準を維持
➤ 2019年度に独占禁止法関連損失引当金戻入額29億円を計上

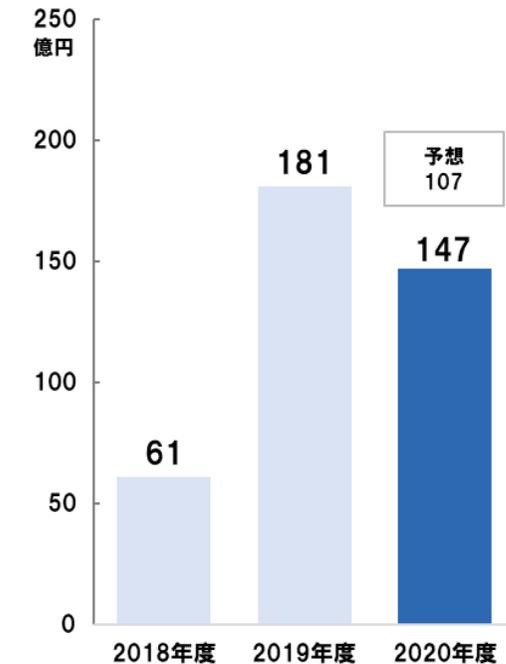
■ 建設事業受注高



■ 売上高



■ 当期純利益



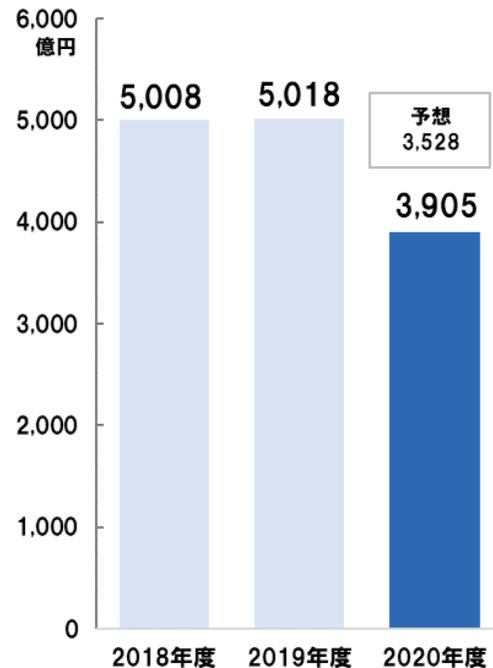
3. 事業別の概況 ⑤海外関係会社

建設受注高 ➤ KUSA(米国)、KAP(東南アジア)が減少

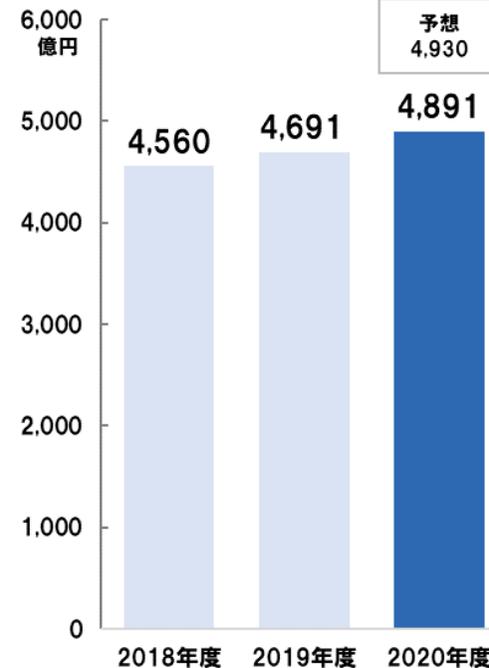
売上高 ➤ 新型コロナウイルスの影響が限定的であったKUSA(米国)における建設、開発事業の堅調な進捗を主因に増収

当期純利益 ➤ KAP(東南アジア)におけるホテル等運営施設の稼働率低下を主因に2019年度を下回る

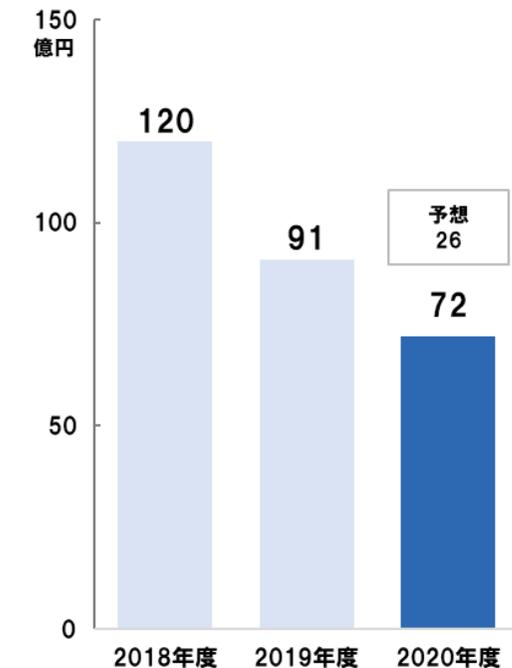
■ 建設事業受注高



■ 売上高



■ 当期純利益



4. 財政状態

連結自己資本は、目安としていた8,000億円台に到達
ROE10%以上を維持

単位:億円	2019年度 実績	2020年度 実績	前年度比	2020年度 予想 ^{※1}
総資産	21,721	21,648	△73	—
有利子負債	3,268	3,170	△98	3,800
自己資本	7,917	8,748	+830	—
自己資本比率	36.5%	40.4%	+3.9pt	—
ROE	13.4%	11.8%	▲1.6pt	—

※1 2020年11月10日公表業績予想

5. 投資実績

中期経営計画において定めた投資計画を達成
優良資産の積み上げや持続的な成長に資する投資を着実に実施

	2018-2020年度		計画比
	投資計画	投資実績	
国内・海外開発事業	4,000億円	4,000億円	—
（売却による回収）	1,750億円	1,600億円	△150億円
国内開発事業	1,600億円	2,000億円	+400億円
（売却による回収）	600億円	600億円	—
海外開発事業	2,400億円	2,000億円	△400億円
（売却による回収）	1,150億円	1,000億円	△150億円
R&D投資	500億円	490億円	△10億円
競争力強化・持続的成長投資	500億円	690億円	+190億円
投資総額	5,000億円	5,180億円	+180億円
（ネット投資額）	3,250億円	3,580億円	+330億円



2021年度 業績予想

1. 事業環境の見通し
2. 業績ハイライト
3. 事業別の概況
4. 株主還元

1. 事業環境の見通し

国内市場の動向

- 公共投資は、インフラ更新等の国土強靱化関連の需要を中心に堅調に推移
- 民間設備投資は、経済回復とともに回復するものの、感染症の影響が完全に払しょくされるまでには時間を要するため、不確実性の高い状況が継続
中長期的には、脱炭素化、デジタル化に関連する建設需要の拡大を期待
- 大型再開発工事を中心に施工が次第に本格化するため、資材・労務への影響に注視していく

海外市場の動向

- 北米、欧州は、製造業、物流施設、大洋州は住宅などの建設需要が堅調に推移することに期待
- 東南アジアは、新型コロナウイルスの収束に伴う段階的な回復を見込んでいるが、感染症拡大前の水準に戻るには、一定の時間を要する見通し

2. 業績ハイライト

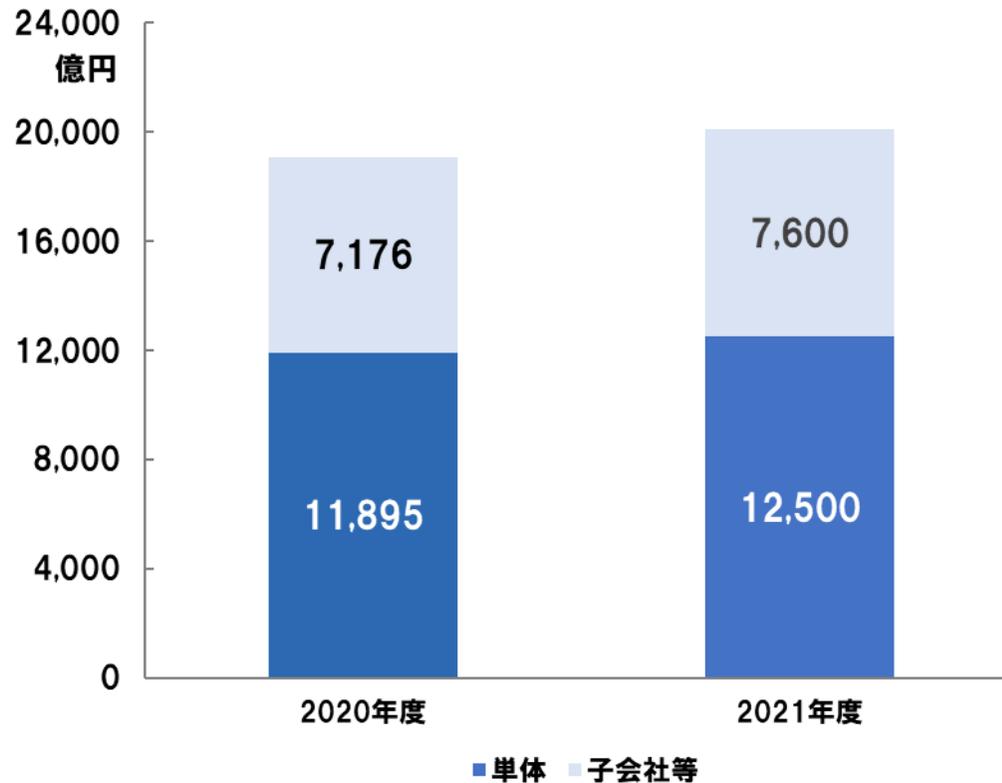
厳しい競争環境や東南アジアの状況を踏まえた予想

単位:億円	2020年度 実績	2021年度 予想	前年度比
売上高	19,071	20,100	+1,028
営業利益	1,272	1,040	△232
経常利益	1,397	1,140	△257
当期純利益 ^{※1}	985	800	△185
建設事業受注高	17,201	17,800	+598
有利子負債残高	3,170	4,300	+1,129

※1親会社株主に帰属する当期純利益

2. 売上高

単位:億円	2020年度 実績	2021年度 予想	前年度比
売上高	19,071	20,100	+1,028

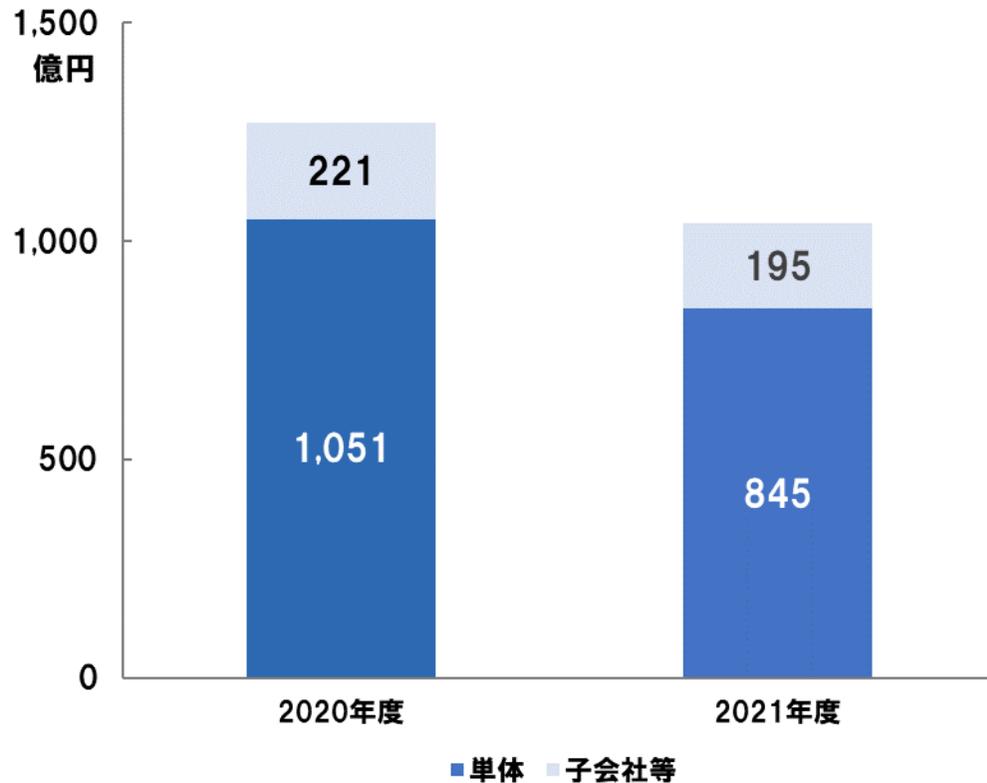


増減要因 (2020年度比)

- 単体建築事業 +1,377
- 海外関係会社 +486
- 単体土木事業 △497
- 国内関係会社 △399

2. 営業利益

単位: 億円	2020年度 実績	2021年度 予想	前年度比
営業利益	1,272	1,040	△232

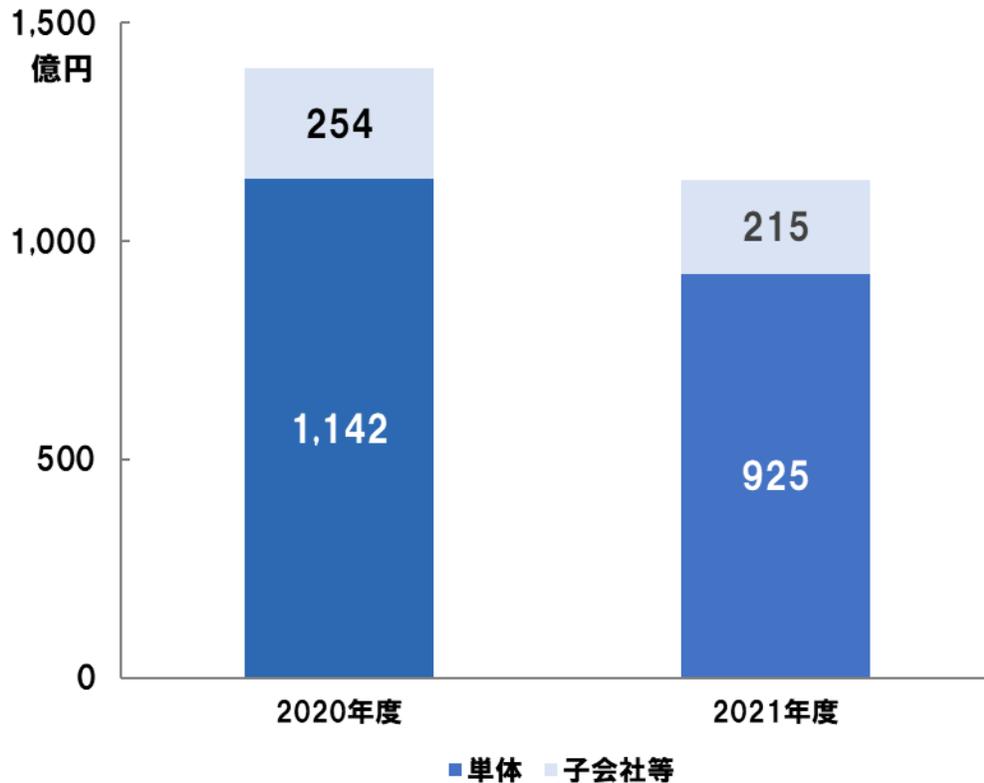


増減要因 (2020年度比)

- 売上総利益 (建設事業) △140
- 売上総利益 (開発事業) △34
- 販管費増加 △58

2. 経常利益

単位:億円	2020年度 実績	2021年度 予想	前年度比
経常利益	1,397	1,140	△257

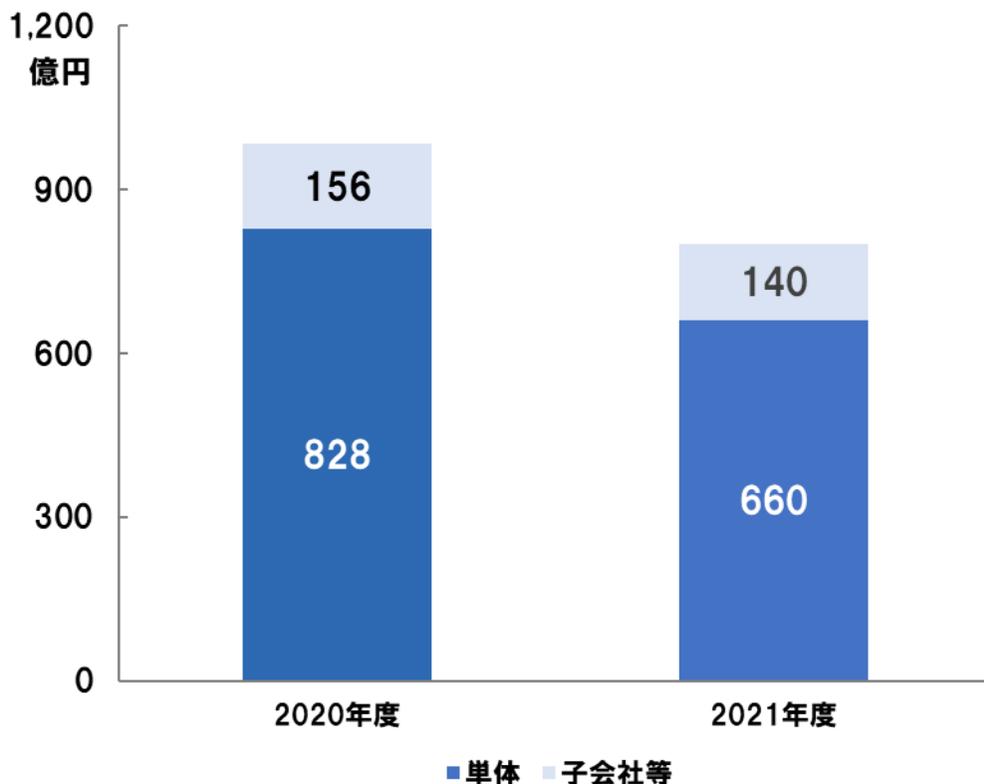


増減要因 (2020年度比)

➤ 営業利益	△232
➤ 営業外損益	△24
〔金融収支〕	△21

2. 親会社株主に帰属する当期純利益

単位:億円	2020年度 実績	2021年度 予想	前年度比
当期純利益	985	800	△185



増減要因 (2020年度比)

➤ 経常利益	△257
➤ 特別損益	△40
➤ 法人税等	+109
➤ 非支配株主持分	+2

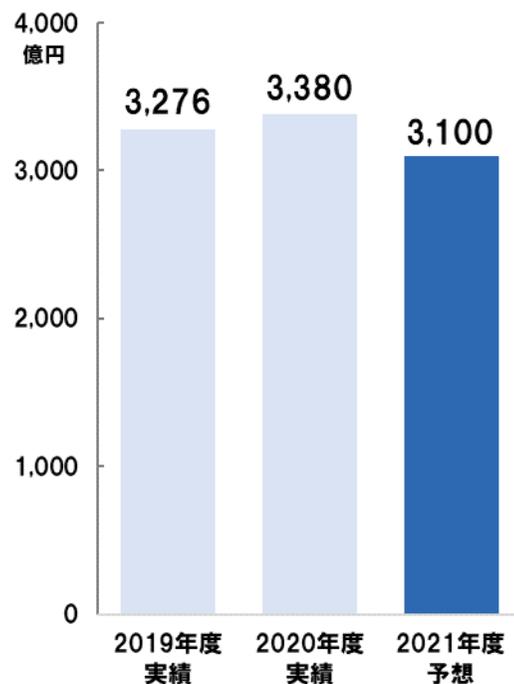
3. 事業別の概況 ①土木事業(単体)

受注高 ➤ 3,000億円台の受注が継続すると見込む

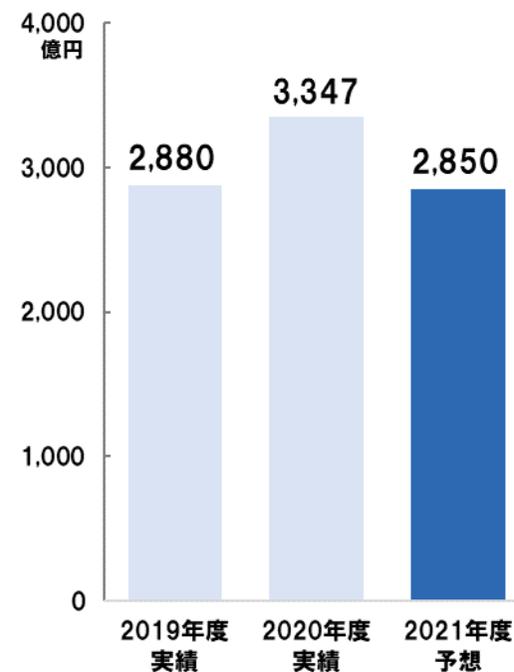
完成工事高 ➤ 工事終盤を迎える工事が少ないことなど手持ち工事の状況から減収を見込む

総利益 ➤ 完成工事高減少を主因に2020年度を下回る見込み

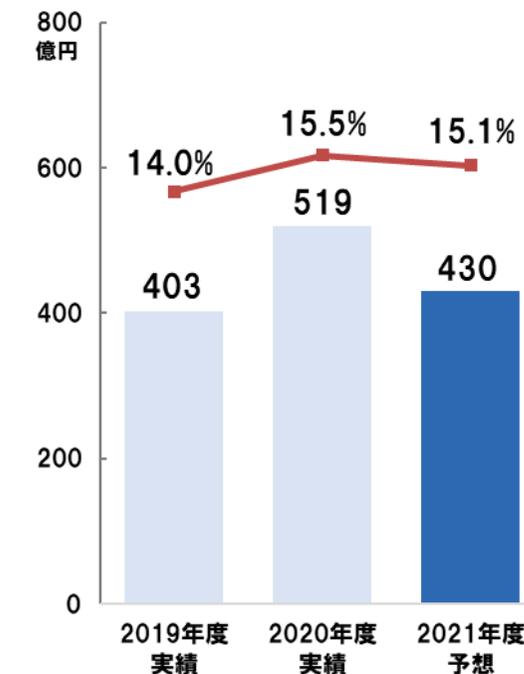
■受注高



■完成工事高



■完成工事総利益



3. 事業別の概況 ②建築事業(単体)

受注高

- 内定・高確度案件の確実な受注により、増加を見込む

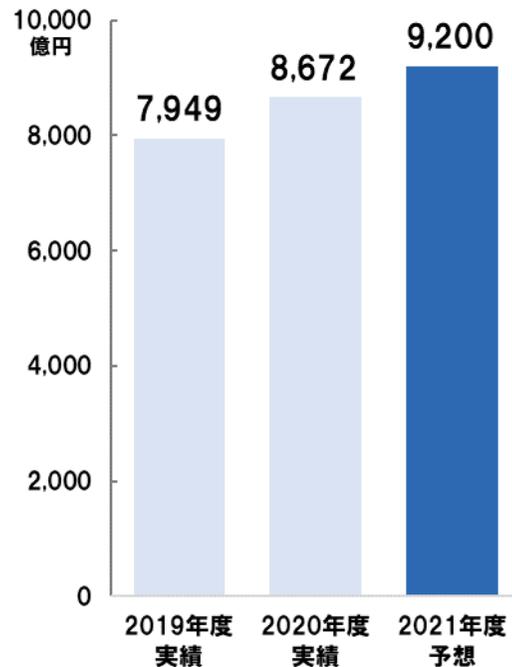
完成工事高

- 大型案件の施工本格化により、増収を見込む

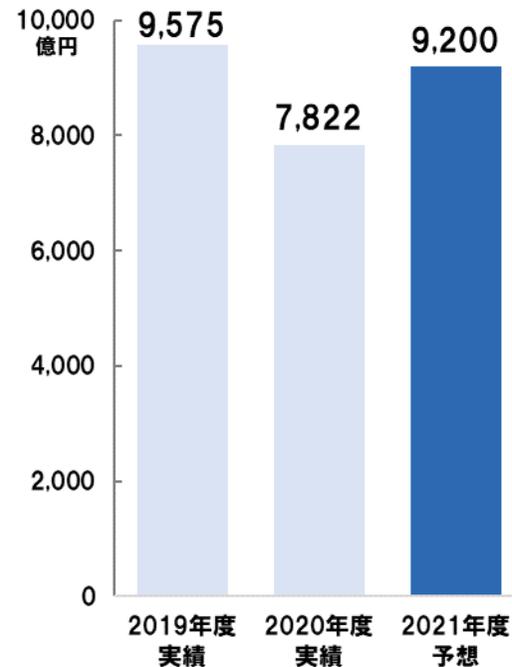
総利益

- 竣工工事が少ないことや厳しい受注競争環境が継続する可能性を考慮し、総利益率の低下を見込む

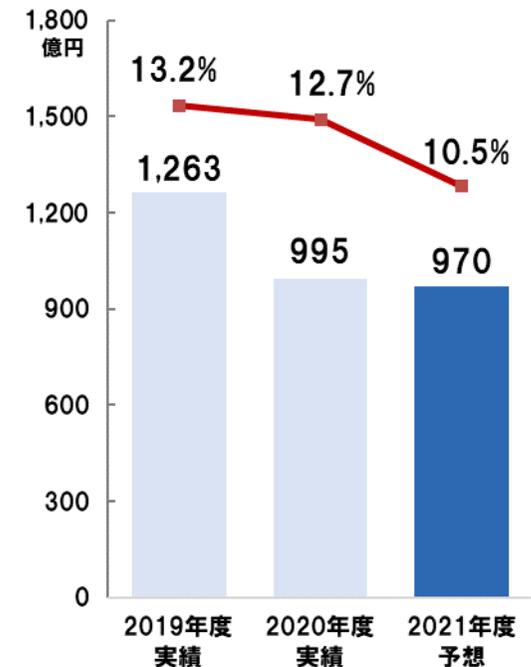
■受注高



■完成工事高



■完成工事総利益



3. 事業別の概況 ③開発事業等(単体)

受注高

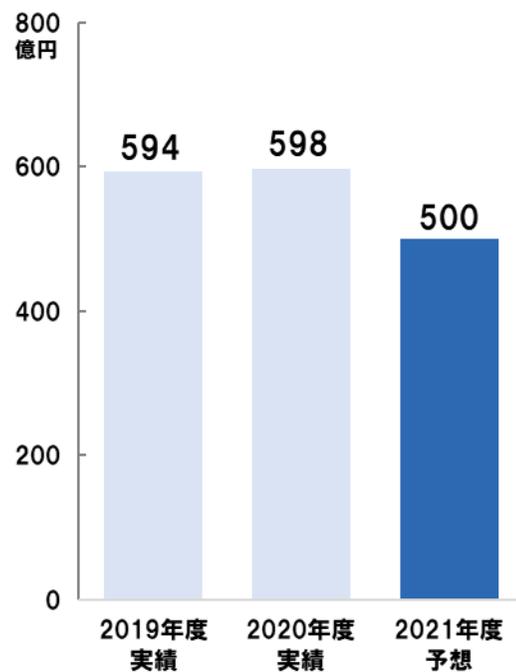
➤ 高水準の2020年度から減少を見込む

売上高

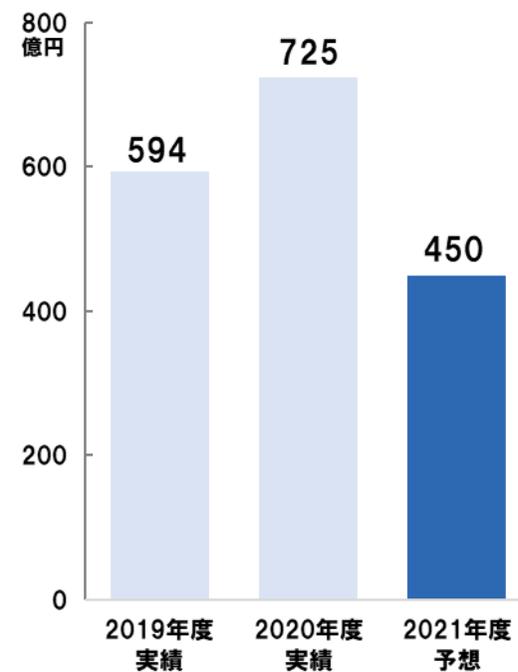
➤ 売却案件の減少により2020年度を下回る見込み

総利益

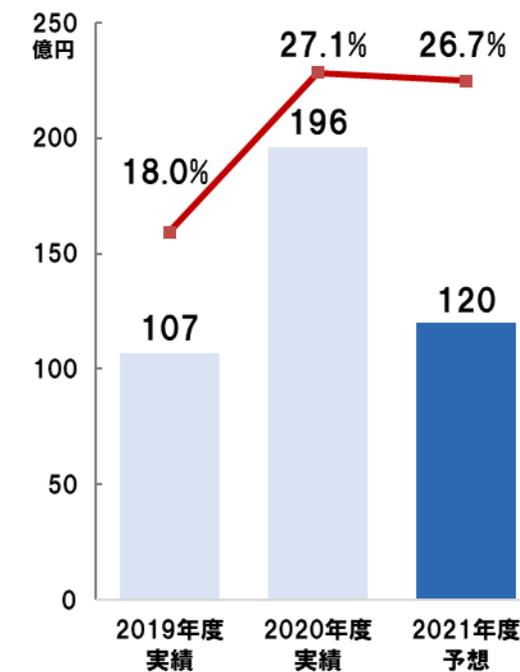
■ 受注高



■ 売上高



■ 売上総利益



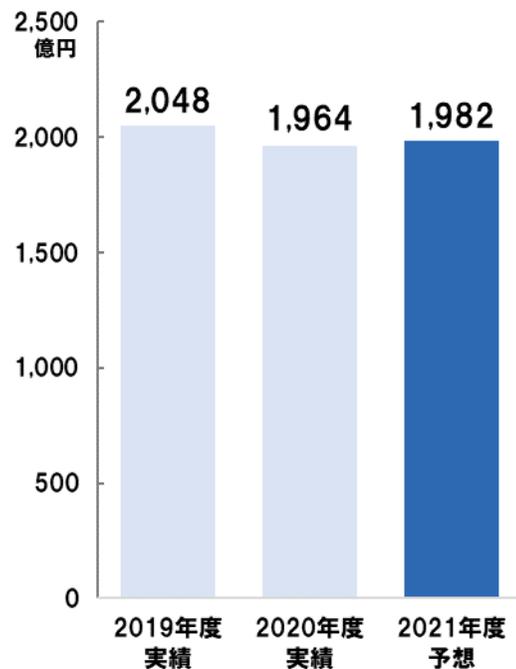
3. 事業別の概況 ④国内関係会社

建設受注高 ➤ 2020年度と同水準を見込む

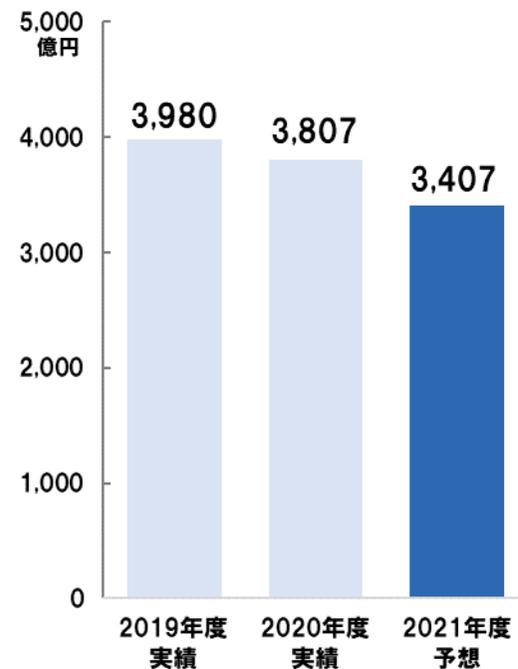
売上高 ➤ 「収益認識に関する会計基準」適用の影響による減収を見込む

総利益 ➤ 建設事業の利益率低下を見込む

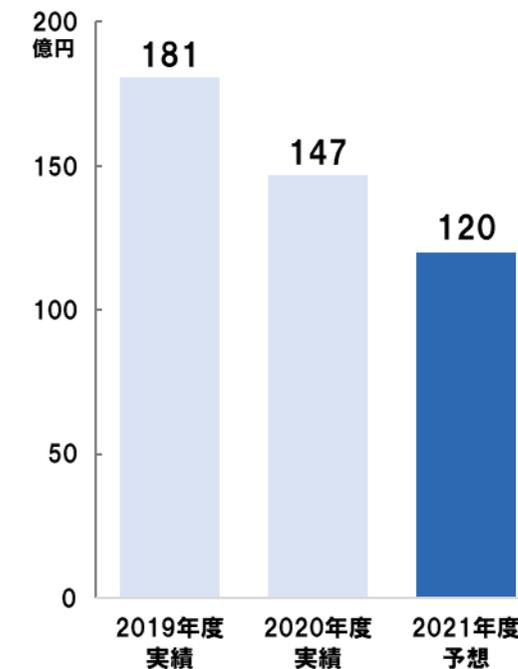
■ 建設事業受注高



■ 売上高



■ 当期純利益



3. 事業別の概況 ⑤海外関係会社

建設受注高 ▶ KAP(東南アジア)における受注環境の改善を見込む

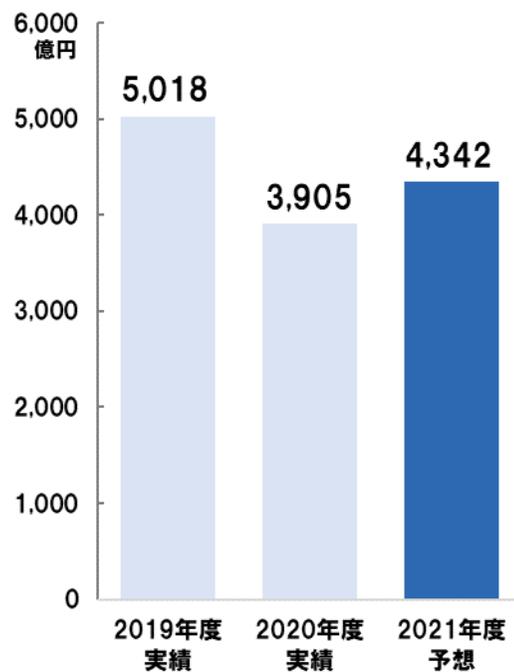
売上高

▶ 欧米における手持ち工事の着実な進捗と流通倉庫開発事業の進展

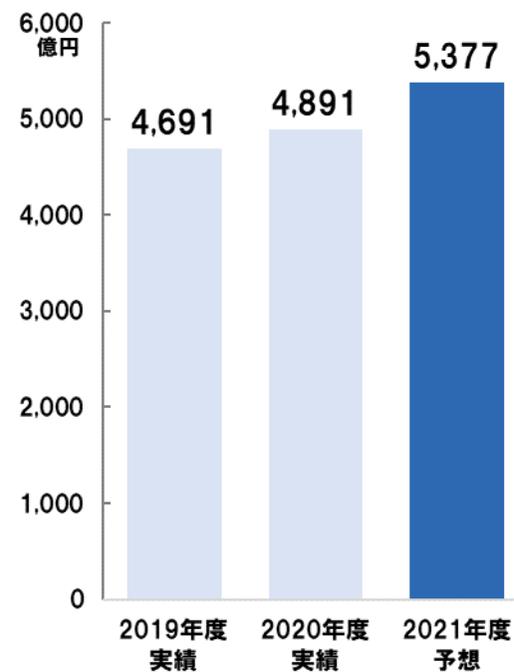
▶ 新型コロナウイルスの影響を大きく受けているKAP(東南アジア)の段階的な業績回復

総利益

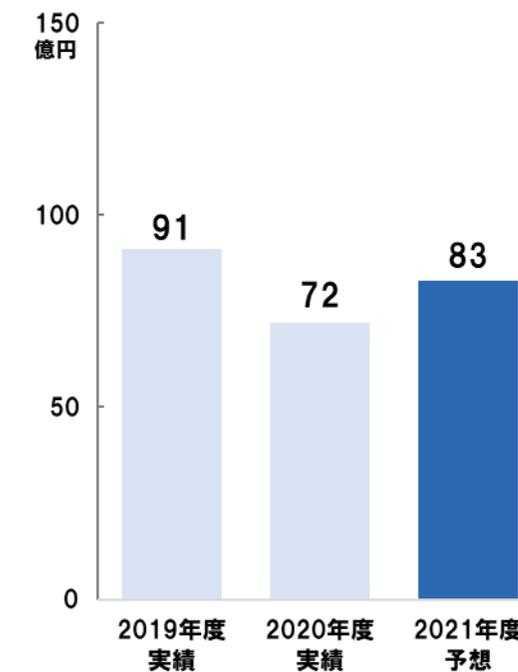
■ 建設事業受注高



■ 売上高



■ 当期純利益



4. 株主還元

配当は、期末配当金を4円増配、2021年度も同水準
3年連続となる100億円を上限とする自己株式の取得を予定

単位：億円	2019年度 実績	2020年度 実績	2020年度 予想 ※1	2021年度 予想
1株当たり 年間配当金	50.00円	54.00円	50.00円	54.00円
1株当たり 当期純利益	200.99円	193.13円	156.03円	158.31円
配当性向	24.9%	28.0%	32.0%	34.1%

※1 2020年11月10日公表業績予想

＜利益配分に関する基本方針＞

配当性向30%を目安とした配当に努めるとともに、業績、財務状況及び経営環境を勘案し、自己株式の取得など機動的な株主還元を行うことを基本方針とする
内部留保金については、財務の健全性を維持しつつ、持続的な成長や企業価値向上に資する投資等に活用する

100年をつくる会社



お問合せ先

鹿島建設株式会社 経営企画部
コーポレート・コミュニケーショングループ
E-Mail : ir@ml.kajima.com

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、実際の業績は、様々な要素により記載の数値とは異なる結果となる可能性があります。